

# 患者は「人質」

東京女子医大病院事件

## 医療を問う

長女を救った。平柳明香さん(20)は、昨年12月、群馬県下田町の病院で母を亡くして1年4カ月、傍聴席の母むすぶ姿(16)がハートで涙を流す。

「(大学の)調査は、院外があまりして……。林院長が議員の質問を何度もはぐらかす。昨年12月、群馬県下田町のほだい寺へ墓参に訪れた。「事故の原因をきちんと説明します」。娘にそう誓ったはずだ。

「病院は何も変わっていません」。父利明さん(61)は、背中をにらみつけた目を固く閉じた。

◆ ◆ ◆

「駆け込み寺」。その母は東京女子医大病院を呼ぶ。幼い息子は重い心臓病で苦しんでいる。国立大学の医師は「ここでは治せない」と見放した。そんな親子が全国から集まる。

「5万円だと受け取ってもらえない」と母親同士のネットワークで聞いた。最低でも10万円らしい。医師への謝礼だ。

この春、母親は病院の売店で「御礼」ののし袋を買った。地方の病院で商品券を渡すことしたら、「お子さんのために使っ

## 謝礼10万「払わないと手術に影響が…」



参院厚労委で発言する東京女子医大病院の林病院長(手前)と手で顔をとおいながら傍聴する平柳さん夫妻=11日、石井倫写真

つものし袋に10万円ずつ入れ、手術前、面談用の個室で教授に「こっちはお母さんですが」と渡した。教授は「はい」と白衣の水ケットへ入れた。謝礼はそのまま受け取った。

◆ ◆ ◆

ハダイン看護婦は、主任教授が「最近、金額が減った」とぼやきの旨を言った。難しい手術の前、家族から20万円を差し出された医師は「僕の技術は十分な金額。買えない」と怒って断ったという。

◆ ◆ ◆

女子医大心臓手術を担当した元教授は「ワンスキーから100万円までもらった」と明かす。「どうにかお気持ちですから……。10万円。それなら当たり前か。この母親は、息子の再手術の

## 看護師「質問してはだめ」

だけ払わないで、手術前、面談用の個室で教授に「こっちはお母さんですが」と渡した。教授は「はい」と白衣の水ケットへ入れた。謝礼はそのまま受け取った。

◆ ◆ ◆

ハダイン看護婦は、主任教授が「最近、金額が減った」とぼやきの旨を言った。難しい手術の前、家族から20万円を差し出された医師は「僕の技術は十分な金額。買えない」と怒って断ったという。

◆ ◆ ◆

女子医大心臓手術を担当した元教授は「ワンスキーから100万円までもらった」と明かす。「どうにかお気持ちですから……。10万円。それなら当たり前か。この母親は、息子の再手術の

◆ ◆ ◆

ハダイン看護婦は、主任教授が「最近、金額が減った」とぼやきの旨を言った。難しい手術の前、家族から20万円を差し出された医師は「僕の技術は十分な金額。買えない」と怒って断ったという。

◆ ◆ ◆

女子医大心臓手術を担当した元教授は「ワンスキーから100万円までもらった」と明かす。「どうにかお気持ちですから……。10万円。それなら当たり前か。この母親は、息子の再手術の

医療問題取材班への  
ご意見や情報を手紙  
(〒100-8051毎日新聞  
社会部)、ファクス(03-  
3212-0635)、メール(s  
hakaibu@mainichi.  
co.jp)でお寄せ下さい。

女子医大小児心臓手術事故

特集・医療を問う

2002年7月13日 毎日新聞

◆ ◆ ◆

ハダイン看護婦は、主任教授が「最近、金額が減った」とぼやきの旨を言った。難しい手術の前、家族から20万円を差し出された医師は「僕の技術は十分な金額。買えない」と怒って断ったという。

◆ ◆ ◆

女子医大心臓手術を担当した元教授は「ワンスキーから100万円までもらった」と明かす。「どうにかお気持ちですから……。10万円。それなら当たり前か。この母親は、息子の再手術の